

上川林業アップデート事業 ～上川町の森と人をつなぐオリジナル手鏡の製作2025～

北海道旭川農業高等学校 森林科学科3年 竹内遥紀 辻美咲 赤間紅愛 青柳漣 中山琉仁 今岡太陽

研究の背景・目的

【背景】

本校演習林（写真1）の所在地でもある上川地方中部に位置する上川町は、最盛期にとても活気のあった林業が、近年では著しく衰退していることを知りました。そこで、上川町と北大FSC、そして本校の3者が連携する「上川林業アップデート事業」を通して、上川町の森と人をつなぐ製品を開発・製作し、上川町や上川町産のシラカンバ材のPRを実施することとしました。

製品を開発・製作するにあたり、上川町から「20代～40代の女性が惹かれる商品を製作してほしい」というテーマをいただき、私たちは昨年度から製品の製作を開始しました。



写真1 旭川農業高校の天幕演習林

【目的】

○ 製作する製品の決定

▶ オリジナル手鏡（スライド式）の製作

自然豊かな上川町をイメージした手鏡の形を考案し、思い出に残る製品の開発を目指しました。

- 1 独自性を意識するとともに、カワイイと手に取ってもらえるデザインを考案します。
- 2 上川町産のシラカンバ材を利用し、上川町の森と人をつなぐきっかけとなる製品を開発して上川町や上川町産材のPR活動を実施します。

▶ ワークショップの実施



研究の内容および成果

【研究の内容】

I オリジナル手鏡のデザインを考える

デザインについては「上川町と関連するデザイン」になるよう班員で話し合った結果、自然豊かな上川町を表現することとなり、手鏡の形状としては珍しい葉っぱ型を採用することとしました。

▶ 木製リーフミラー（葉っぱ型の手鏡） 長辺135mm × 短辺55mm × 厚さ10mm

II 製品を完成させる

①手鏡本体の製作

手鏡の厚さは、上部の部材と下部の部材ともに5mmとしました。葉っぱの形になるようにカットするとともに、鏡を埋め込む溝を鏡の形となるように3mmの深さで、磁石を埋め込むための溝も3mmの深さで削りました（写真2）。



写真2 ①の製作過程

②手鏡を組み立てる

鏡と磁石を本体に接着し、上部の部材と下部の部材を8mmのネジで接合しました（写真3）。



写真3 ②の製作過程

③試作品の完成

紙やすりで全体を磨き、縁は丸みをつけて持ち心地をアップさせて完成しました（写真4）。



写真4 木製リーフミラー

III デコレーションパーツを考案する

手鏡に付加価値やオリジナリティを出すため、手鏡の表面をデコレーションすることとなりました。デコレーションパーツの方向性を話し合っている際、上川町でガラス細工を製作していることを知り、完成した手鏡にそのガラス細工をつけてみると、ガラスの輝きが光の反射でシラカンバ材の自然体の姿をより引き立たせてくれました。こうして、デコレーションパーツとして、上川町で製作しているガラス細工を採用することとなりました。ガラス細工の種類は、葉っぱ細工、花細工、丸細工を用意しました（写真5）。丸細工は、手鏡本体に穴をあけて差し込むタイプとしました。こうすることで、手鏡を広げた際に光が丸細工のガラスを通過し美しく輝き、とても幻想的な表情をみせます（写真6）。

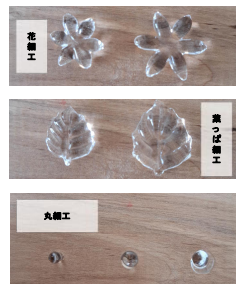


写真5 ガラス細工の選定



写真6 丸細工の仕掛け

IV ワークショップを開催する

ワークショップは、令和7年12月21日に上川町のかみんぐホールで、令和8年1月13日にはイオンモール旭川西店で実施しました。多くの方に体験していただき、上川町について知ってもらえる機会となりました。また、製品の良いアピールができました（写真7）。



写真7 ワークショップ用のキット

今後の展開

昨年度からの活動により、改良を重ねながらオリジナル手鏡を完成させることができました。また、ワークショップを開くことができ、上川町やオリジナル手鏡のPR活動ができました。かつて林業の町として栄えた上川町に、木工製品の開発を通して新たな風を吹き込めるよう今後も活動を継続していきます。